

令和 2年 3月

# 近藤陽子 学位論文審査要旨

主 査 景 山 誠 二  
副主査 尾 崎 米 厚  
同 林 眞 一

## 主論文

Molecular cloning and characterization of plerocercoid-immunosuppressive factor from *Spirometra erinaceieuropaei*

(マンソン裂頭条虫由来のプレロセルコイド免疫抑制因子の分子クローニングと特性)

(著者：近藤陽子、伊藤大輔、蓼本早百合、伊丹菜菜瀬、西方修馬、高島英造、  
坪井敬文、福本宗嗣、大槻均)

令和2年 Parasitology International 掲載予定

## 参考論文

1. Alternative activation of macrophages in mice peritoneal cavities and diaphragms by newborn larvae of *Trichinella spiralis*

(旋毛虫の新生幼虫によるマウス腹腔と横隔膜のマクロファージの代替的活性化)

(著者：伊丹菜菜瀬、近藤陽子、蓼本早百合、伊藤大輔、福本宗嗣、大槻均)

令和2年 Yonago Acta Medica 63巻 34頁～41頁

2. Reliability and validity of the alcohol use disorders identification test - consumption in screening for adults with alcohol use disorders and risky drinking in Japan

(日本でのアルコール使用障害と危険な飲酒について成人のふるい分け検査におけるアルコール使用障害同定テスト-簡易版の信頼性と妥当性)

(著者：尾崎米厚、猪野亜朗、松下幸生、樋口進、近藤陽子、金城文)

平成26年 Asian Pacific Journal of Cancer Prevention 15巻 6571頁～6574頁

## 審査結果の要旨

本研究は、マンスン裂頭条虫幼虫が分泌するプレロセルコイド由来免疫抑制因子(P-ISF)の機能解析を行ったものである。まず、P-ISF遺伝子の全長5,205 bpの塩基配列を決定し、次いで、アミノ酸配列からシグナルペプチドと内部にフィブロネクチンⅢ型ドメイン(FN3)を持つことを推測し、さらに、FN3の前後にシステインを多く含むアミノ酸配列の類似した機能未知の2領域を確認した。この領域は、広節裂頭条虫の機能未知タンパク質と高い相同性を示したが、それ以外は既知の遺伝子と相同性は認められず、新規の免疫抑制因子であることが示唆された。また、P-ISFが幼虫期にのみ発現し、虫体の柔組織全体に検出されることも確認している。本論文の内容は、裂頭条虫類の新たな免疫学的機序の解明につながるものであり、明らかに寄生虫学領域の学術水準を高めたものと認める。